

# 平安京右京六条三坊四町跡

2023年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



# 平安京右京六条三坊四町跡

2023年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



# 序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、建物増築工事に伴う平安京跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

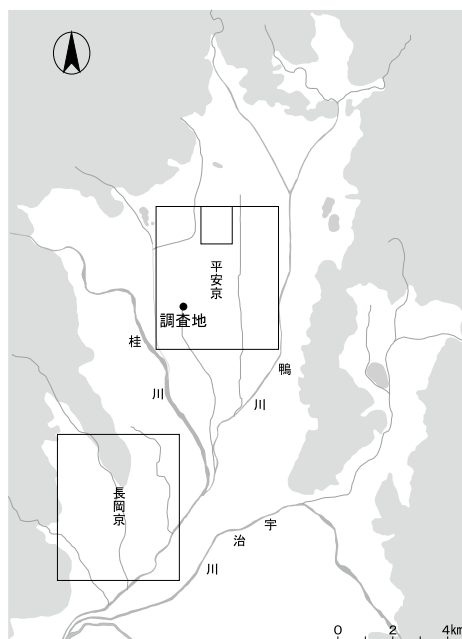
令和5年3月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所  
所 長 井 上 満 郎

# 例 言

- 1 遺 跡 名 平安京跡（京都市番号 22H112）
- 2 調査所在地 京都市右京区西院溝崎町12-1番地 他
- 3 委 託 者 ローム株式会社 管理本部 総務・安全・サステナビリティ推進担当  
総務部長 山根慎太郎
- 4 調査期間 2022年8月8日～2022年9月2日
- 5 調査面積 266㎡
- 6 調査担当者 小檜山一良
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「西京極」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 11 遺構番号 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。
- 12 遺物番号 通し番号を付した。
- 13 本書作成 小檜山一良
- 14 備 考 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。

(調査地点図)



# 目 次

1. 調査経過	1
2. 遺 跡	3
(1) 位置と環境	3
(2) 周辺の調査	3
3. 遺 構	6
(1) 基本層序	6
(2) 遺 構	6
4. 遺 物	8
(1) 遺物の概要	8
(2) 土器類	8
(3) 瓦類	10
5. ま と め	11

# 図 版 目 次

図版1	遺構	調査区平面図 (1 : 120)
図版2	遺構	調査区断面図 (1 : 100)
図版3	遺構	柱列19・33・43実測図 (1 : 50)
図版4	遺構	1 調査区全景 (西から)
		2 溝12 (北から)
		3 柱列33 (北から)

## 挿 図 目 次

図1	調査位置図（1：2,500）	1
図2	調査区配置図（1：500）	2
図3	調査前全景（南東から）	2
図4	作業状況（南西から）	2
図5	周辺調査位置図（1：5,000）	4
図6	基本層序（1：40）	6
図7	溝12実測図（1：40）	7
図8	溝12遺物出土状況（南東から）	7
図9	土器類実測図（1：4）	9
図10	軒丸瓦拓影及び実測図（1：4）	10
図11	平安京右京六条三坊四町の調査遺構配置図（1：1,000）	11

## 表 目 次

表1	周辺調査一覧表	5
表2	遺構概要表	6
表3	遺物概要表	8

## 付 表 目 次

付表1	土器類一覧表	13
-----	--------	----



# 平安京右京六条三坊四町跡

## 1. 調査経過

調査地は、京都市右京区西院溝崎町12-1番地 他に所在しており、平安京右京六条三坊四町跡及び宇多小路跡にあっている。当地にローム株式会社本館増築工事が計画され、2022年度に京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下、「文化財保護課」という）が試掘調査を実施し、平安時代の遺構面を検出している。これにより、文化財保護課から原因者に対し発掘調査の指導が行われ、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が委託を受けて発掘調査を実施することとなった。

調査の目的は、平安京右京六条三坊四町跡及び宇多小路跡の遺構の確認と当地の歴史の変遷を明らかにすることである。

調査区は、文化財保護課の指導の下、東西19m、南北14mの範囲に設定した。調査面積は約266㎡である。2022年8月8日から調査区の重機掘削を開始した。既存建物の基礎による攪乱部分が多く、遺構面が残っていたのは全体の約3割の面積であった。コンクリート床下約1.4m（標高約22.3

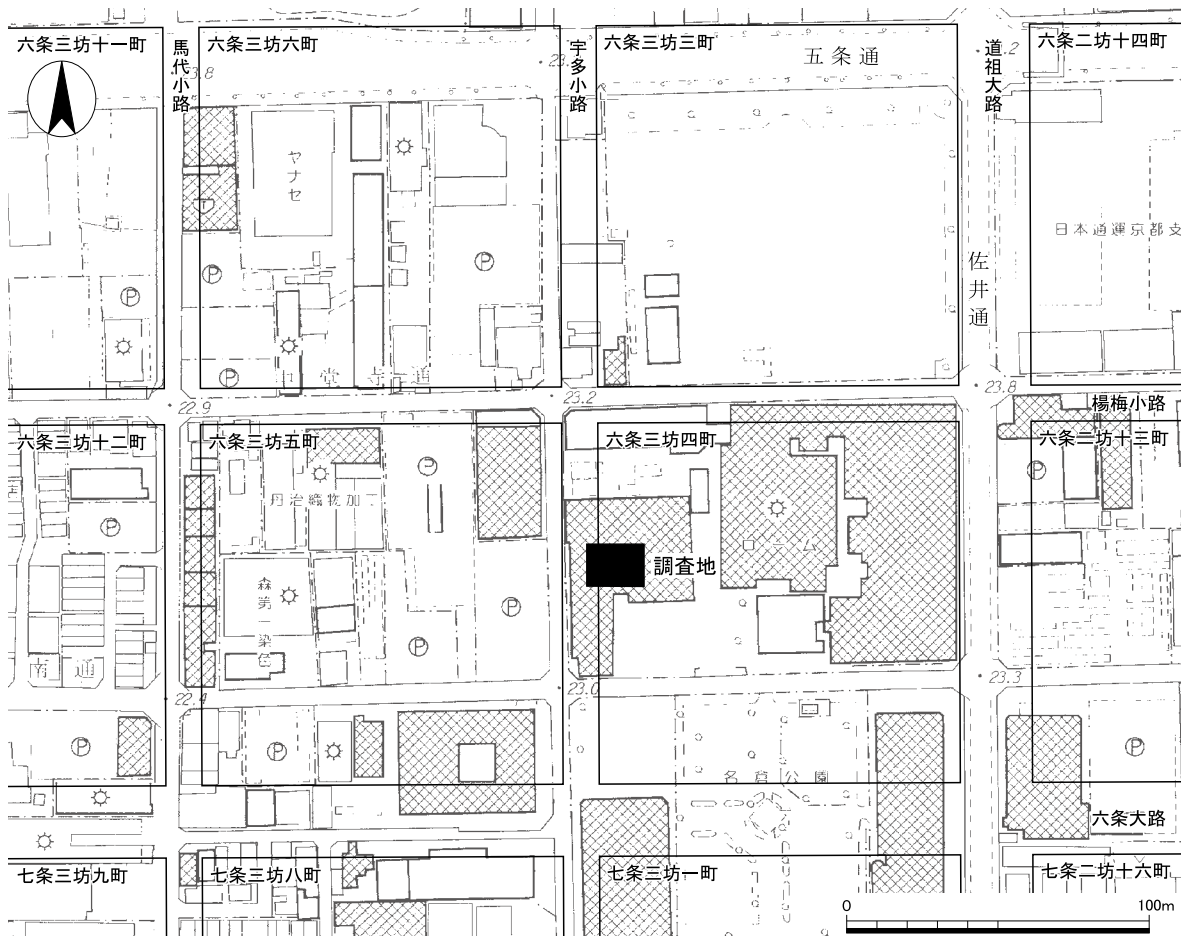


図1 調査位置図 (1 : 2,500)

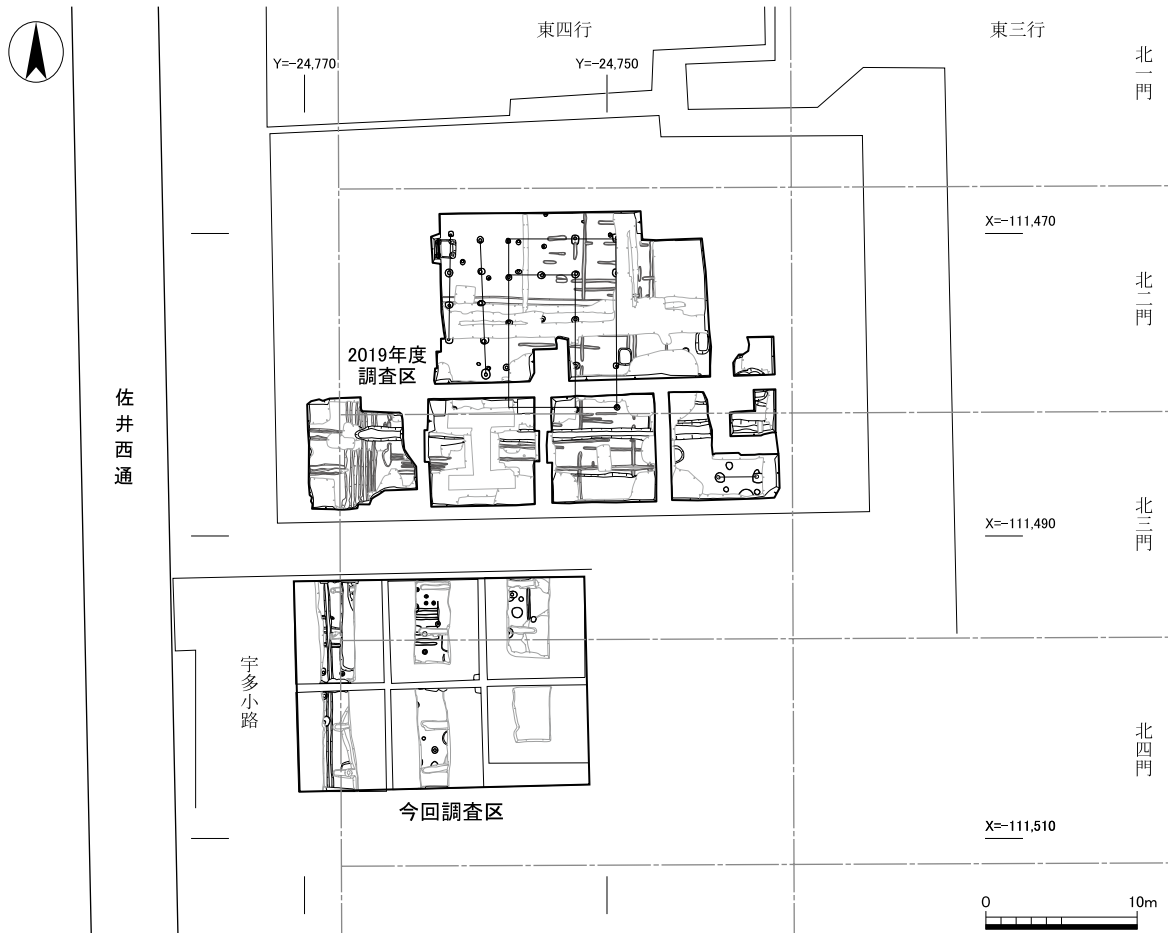


図2 調査区配置図 (1 : 500)



図3 調査前全景 (南東から)



図4 作業状況 (南西から)

m) で平安時代前期の溝・土坑・柱穴などを検出した。調査中の排土は、調査区内の建物基礎攪乱部分に仮置きした。9月2日にすべての調査を終了し、撤収した。

遺構の記録は、随時実測図を作成、写真撮影を行った。

調査中は、文化財保護課の検査・指導を受け、8月29日には検証委員である近畿大学教授の網伸也氏による検証を受けた。

## 2. 遺 跡

### (1) 位置と環境

今回の調査地は、京都盆地のほぼ中央に位置し、平安京右京六条三坊四町跡に相当する。北を楊梅小路、西を宇多小路、南を六条大路、東を道祖大路に囲まれる。また、北方約200mには弥生時代から古墳時代の遺跡である西院遺跡があり、西方約350mには弥生時代から奈良時代の遺跡である西京極遺跡が位置している。

当該地は四町の北西部にあたり、四行八門制では、東四行北三・四門となる。他の右京域の多くと同様に、平安時代のこの町の土地利用を示す史料は明らかではない。当該地の北西約850mには、淳和天皇の後院である淳和院が営まれ、これが西院と別称されたために、この地域を後に西院と称するようになったとされる。右京域は紙屋川をはじめとする小河川が多く存在し、扇状地帯と自然堤防帯が展開し洪水氾濫が頻発しやすい不安定な地域であった。調査地周辺も紙屋川の扇状地帯にあたる。これら小河川の洪水の氾濫をおさえるために9世紀前半以降に河川を開削し、平安京右京域で分流工事を行うなど治水事業を行っての土地利用が進められた。しかし、平安時代中期以降になると再び、紙屋川は高い頻度で洪水氾濫を引き起こした。また、桂川流域の旧河道に形成された低湿地の影響も重なり、この地域は衰退した。

近世初頭には、豊臣秀吉により御土居が築造され、御土居内いわゆる洛中での本格的都市改造が行われる。一方、洛外にあたる西院では公家・寺社領地の替地が設けられ、周辺地域は農業が盛んとなり、近代に至っている。

### (2) 周辺の調査（図5、表1）

今回の調査地の四町域では、6次にわたる発掘調査が実施されており、平安時代の遺構が多く検出されている。図中の調査番号は、本文中の番号と一致する。

1981年度の調査2では、平安時代前期から中期の建物・柵・溝を検出している。1986年度の調査3では、平安時代の建物・柵・溝・井戸・土坑・町内道路・道祖大路内溝を検出している。1989年度の調査4では、平安時代の建物・柵・土器埋納土坑を検出している。1993年度の調査5では、平安時代の建物・落込み・道祖大路内溝を検出している。1995年度の調査6では、平安時代の建物・堀・楊梅小路路面を検出している。2019年度の調査7では、平安時代前期の建物・堀・溝・土坑・落込みを検出している。

このように四町域では9世紀前半から10世紀前半にかけての掘立柱建物・井戸・町内道路・池などが確認されている。また、四面庇建物と池が存在し、有力者の居宅が存在したと考えられる。なお、道祖大路の側溝からは「佐」銘の墨書土器も出土しており、居住者との関係が指摘されている。

また、六町における2004年度の調査8では、平安時代の掘立柱建物・井戸・流路化した馬代小

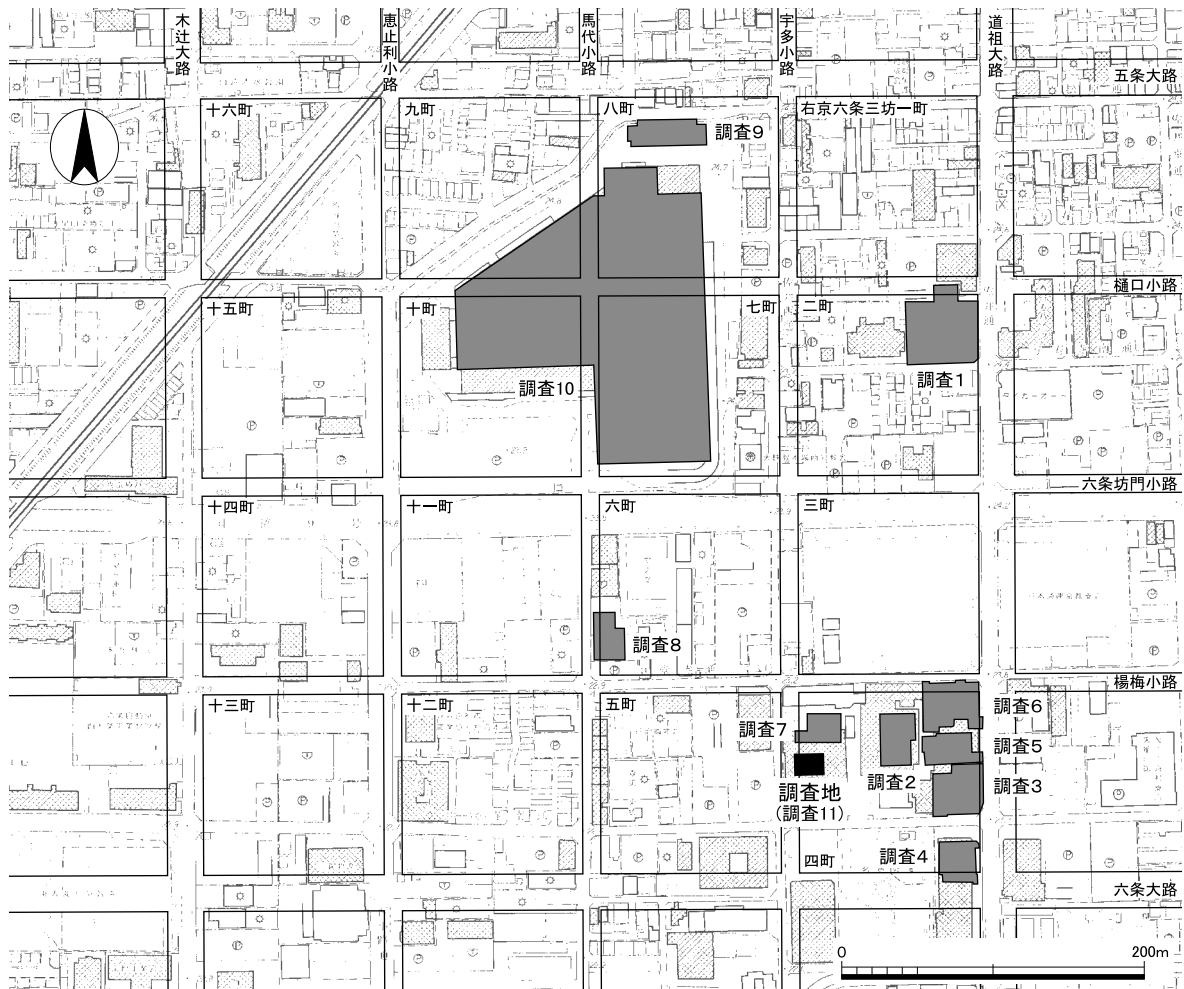


図5 周辺調査位置図 (1 : 5,000)

路、中世の素掘り溝を検出しており、井戸からは人名が墨書された男女1組の人形代が出土している。

さらに、七・八・九・十町において2000～2001年度に大規模な調査10が行われ、平安時代の流路、樋口小路・馬代小路に伴う条坊遺構、掘立柱建物、町内道路などが検出され、1町規模の宅地の存在が明らかとなった。遺物としては、「讃岐国苅田郡白米」などと書かれた木簡、人形代、斎串や獣骨などの祭祀遺物が出土している。

#### 文献

- 1) 百瀬正恒『平安京右京六条三坊二町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2003-7 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2004年
- 2) 鈴木廣司「31 右京六条三坊」『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1983年
- 3) 平尾政幸ほか「12 平安京右京六条三坊」『昭和61年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1989年
- 4) 菅田 薫「25 平安京右京六条三坊」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1994年

表1 周辺調査一覧表

番号	条坊	調査年度	調査機関	平安時代の遺構	その他の時代の遺構	文献
1	右京六条三坊二町	2003年度	京都市埋蔵文化財研究所	平安時代前期：建物、井戸、土坑、樋口小路南側溝。	中世：南北溝。 近世～近代：耕作溝、土坑。	1
2	右京六条三坊四町	1981年度	京都市埋蔵文化財研究所	平安時代前期～中期：建物、柵、溝。		2
3	右京六条三坊四町	1986年度	京都市埋蔵文化財研究所	平安時代：建物、柵、溝、井戸、土坑、道祖大路内溝。	古墳時代：流路、落込み。	3
4	右京六条三坊四町	1989年度	京都市埋蔵文化財研究所	平安時代：建物、柵、土坑(土器埋納遺構)。	鎌倉時代以降：耕作溝。	4
5	右京六条三坊四町	1993年度	古代文化調査会	平安時代：建物、落込み、道祖大路内溝。	中世以降：耕作溝。	5
6	右京六条三坊四町	1995年度	古代文化調査会	平安時代：建物、塀、楊梅小路路面高まり。	中世以降：耕作溝。	5
7	右京六条三坊四町	2019年度	京都市埋蔵文化財研究所	平安時代前期：建物、塀、溝、土坑、落込み。	中世以降：耕作溝。	6
8	右京六条三坊六町	2004年度	京都市埋蔵文化財研究所	平安時代前期：建物、井戸、馬代小路内溝。平安時代後期：建物、流路(馬代小路)。	中世以降：耕作溝。	7
9	右京六条三坊八町	1990年度	京都市埋蔵文化財研究所	平安時代前期～中期：建物、柵。	古墳時代後期：土坑。 中世以降：耕作溝。	8
10	右京六条三坊七～十町	2000・2001年度	古代学協会	平安時代：建物、柵、門、池、流路、木棺墓、樋口小路、馬代小路。	縄文時代：流路、土坑。 古墳時代：総柱建物、流路。 中世以降：建物、耕作溝。	9
11	右京六条三坊四町	2022年度	京都市埋蔵文化財研究所	平安時代前期：宇多小路内溝、柱穴列、土坑。	鎌倉時代以降：耕作溝。	本報告

- 5) 家崎孝治ほか『平安京右京六条三坊 -ローム株式会社社屋新築に伴う調査-』古代文化調査会 1998年
- 6) 西田倫子『平安京右京六条三坊四町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2019-8 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2020年
- 7) 南 孝雄『平安京右京六条三坊六町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2004-2 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2004年
- 8) 前田義明「21 平安京右京六条三坊」『平成2年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- 9) 堀内明博『平安京右京六条三坊 平安京跡研究調査報告第20輯』財団法人古代学協会・古代学研究所 2004年

### 3. 遺 構

#### (1) 基本層序 (図6)

調査区の現標高は約23.7mである。調査区内の四周は既存建物のコンクリート基礎であるため、調査区中央部で基本層序を確認・記録した。

地表から現代盛土層が厚さ約1.2m、中世耕土・床土層が厚さ約0.2m、その下が基盤層となるにぶい黄褐色シルトの地山となる。

地山面上で、平安時代前期の柱列・溝・土坑・柱穴などを検出した。また、鎌倉時代以降の遺物を含む耕作溝を調査区全体で確認している。

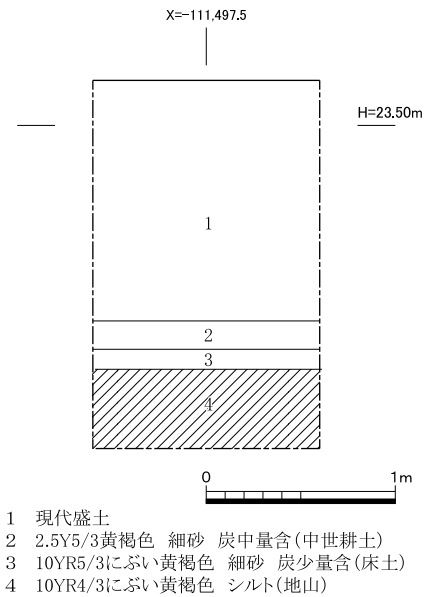


図6 基本層序 (1:40)

#### (2) 遺 構 (図版1～4)

##### 平安時代

**溝12** (図7・8、図版4) 調査区北西部で検出した南北方向の溝である。断面形は浅い箱形を呈する。南北5.9m以上、幅1.0m以上、深さ約0.3m。さらに北に延びるが、南端は止まる。埋土は暗灰黄色細砂・褐灰色粘土を主体とする。中・下層に炭が混じり、土器類を多く包含する。溝の西肩が宇多小路東築地心推定線にあたっている。四町の内溝の可能性はある。

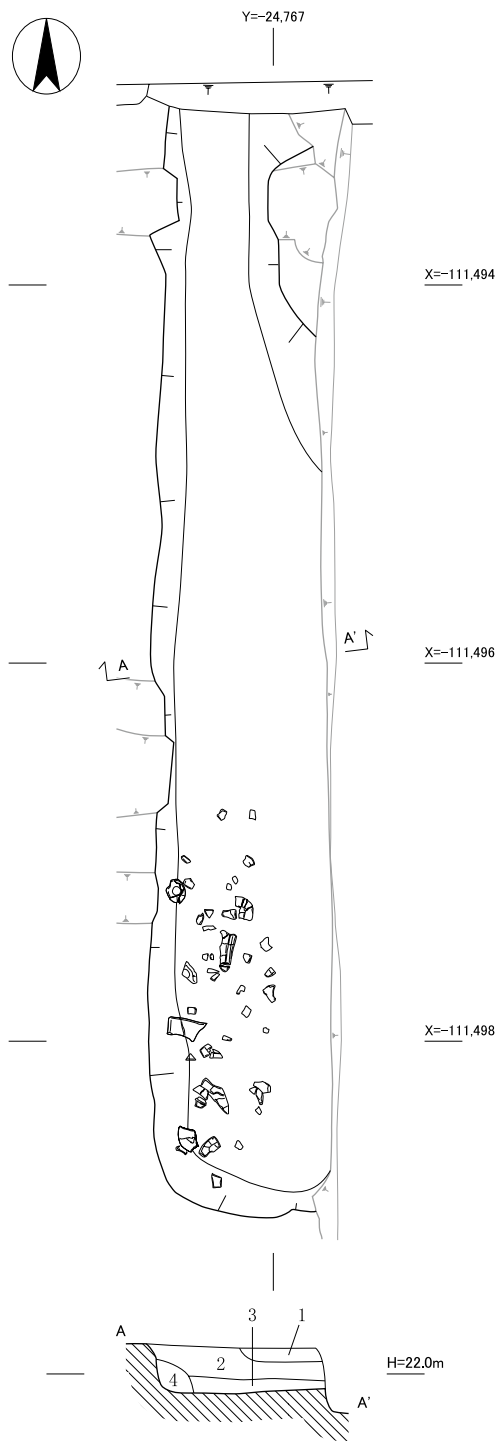
**柱列19** (図版3) 調査区西部で検出した3基の柱穴(柱穴19・38・39)からなる。柱穴は径0.4～0.6m。深さ0.3～0.5m。柱間は北から1.6m・1.7m。柱痕跡から推測される柱径は約0.2mである。方位は北に対してやや西に振れる。宇多小路東築地心推定線から約1.2m西にあたり、宇多小路と四町の宅地の境界となる位置にあたる。

**柱列33** (図版3・4) 調査区北東部で検出した2基の柱穴(柱穴33・44)からなる。柱穴は径約0.6m。深さ0.3～0.5m。柱間は約2.4m。柱痕跡から推測される柱径は約0.2mである。方位は北に対してやや東に振れる。建物の一部となる可能性がある。

**柱列43** (図版3) 調査区中央北部で検出した2基の柱穴(柱穴43・46)からなる。柱穴は径約0.3～0.4m。柱間は約1.6m。柱痕跡から推測される柱径は約0.2mである。

表2 遺構概要表

時 代	遺 構	備 考
平安時代前期	溝12、柱列19・33・43、土坑35、柱穴	
鎌倉時代以降	耕作溝、土坑	



- 1 7.5YR4/4褐色 細砂 焼土含
- 2 2.5Y4/2暗灰黄色 細砂 炭・焼土・土器片多量含
- 3 2.5Y5/1褐灰色 粘土 炭・土器片含
- 4 10YR3/2黒褐色 細砂

図7 溝12実測図 (1 : 40)



図8 溝12遺物出土状況 (南東から)

土坑35 調査区北東部で検出した。径約0.7 m、深さ約0.2m。埋土は黒褐色細砂を主体とする。

#### 鎌倉時代以降

耕作に関係するとみられる溝や土坑などがある。

## 4. 遺物

### (1) 遺物の概要 (表3)

出土遺物は、整理コンテナに5箱で、その内訳は土器類4箱、瓦類・その他が1箱である。内容は土器類では平安時代のものが大半を占める。その他には中世から近世のものが少量ある。

平安時代の土器類には、溝・土坑・柱穴から出土した土師器・須恵器・黒色土器・灰釉陶器・緑釉単彩陶器・瓦器・輸入陶磁器がある。鎌倉時代以降の土器・陶磁器類には、耕作溝・土坑などから出土した土師器・瓦器・焼締陶器・施釉陶器・染付磁器などが少量ある。

瓦類には、溝・土坑から出土した軒丸瓦・丸瓦・平瓦がある。溝12から出土した軒丸瓦は、長岡宮からの搬入品である。

その他の遺物には、鎌倉時代以降の耕作溝や土坑から出土した金属製品などが少量ある。

### (2) 土器類 (図9、付表1)

溝12出土土器 (1～18) 土師器・黒色土器・須恵器・緑釉単彩陶器など平安時代前期の土器類がまとまって出土した。1 B段階に属する<sup>1)</sup>。

1～14は土師器である。1～6は椀Aである。丸底気味の底部から体部は内湾気味に立ち上がり口縁部に至る。口縁端部は丸く収める。表面の剥落が著しく、各個体の成形技法や調整手法の観察に困難があったが、内面はナデ調整、外面はヘラケズリとナデ調整とみられる。1～5は口径11.8～13.0cm、器高は3.0～3.4cm。6は口径16.0cmの大型である。2は河内産である。7～9は皿Aである。平らな底部から口縁部は内湾気味にのびる。口縁端部は丸く収める。器壁が剥離しているため観察しにくい。内面はナデ調整、外面はヘラケズリとナデ調整とみられる。10・11は蓋である。10はやや丸みを帯びた天井部の中心につまみが付く。つまみは頂部が窪んでいる。11は杯Bの蓋である。やや丸みを帯びた天井部から体部は緩やかに下外方にのびる。端部は丸く収める。外面にわずかにヘラミガキ痕がみえる。つまみは欠損する。胎土は密で、焼成は良好である。12・13

表3 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
平安時代	土師器、須恵器、黒色土器、灰釉陶器、緑釉単彩陶器、輸入陶磁器、瓦器、瓦類		土師器16点、須恵器4点、黒色土器1点、緑釉単彩陶器1点、軒丸瓦1点		3箱
鎌倉時代以降	土師器、瓦器、焼締陶器、施釉陶器、染付磁器、瓦類、金属製品				2箱
合計		6箱	23点 (1箱)	0箱	5箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より1箱多くなっている。



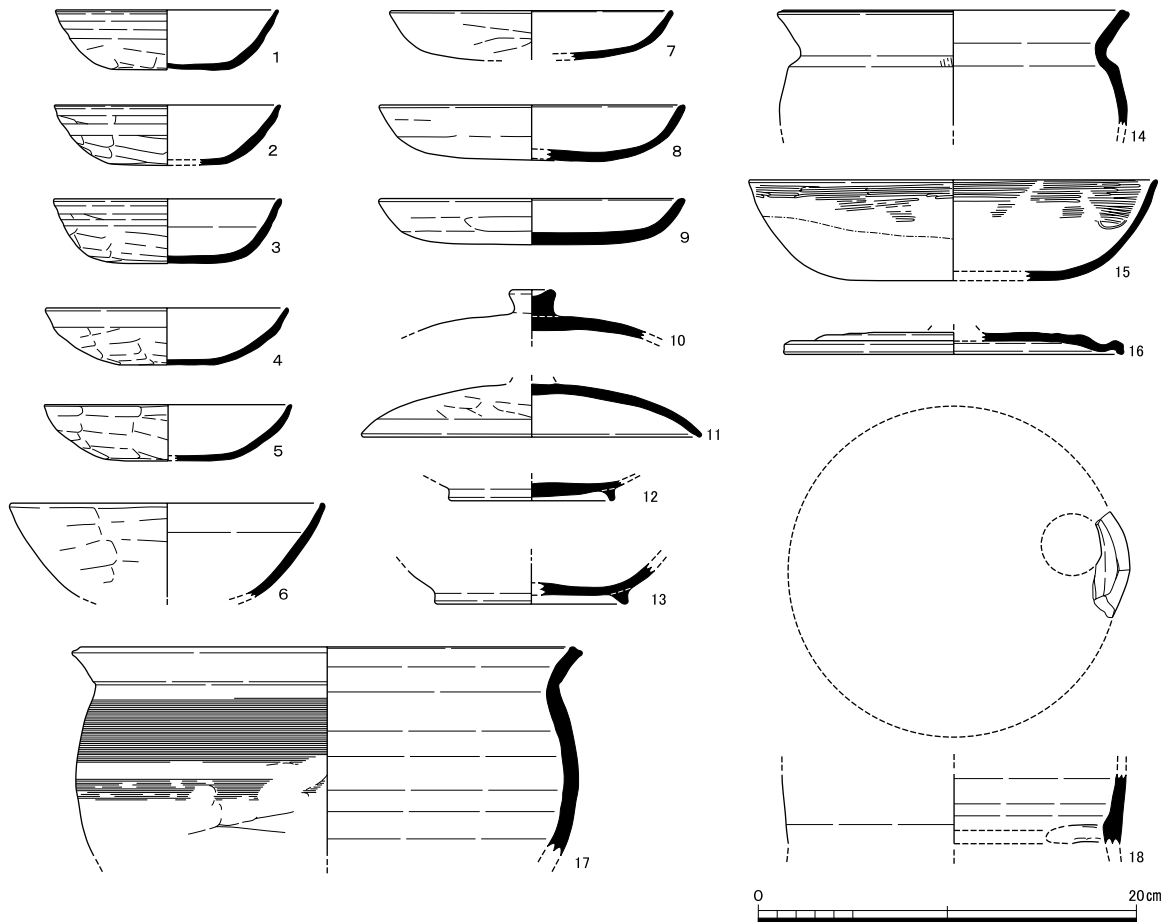
は椀Bである。平坦な底部に高台を貼り付ける。外面はナデを施す。内面にはわずかにヘラミガキ痕がみえる。胎土は密で、焼成は良好である。14は甕である。口縁部は外反し、端部には沈線が巡る。体部内面はナデ、口縁部内外面はヨコナデを施す。外面にはハケ目が観察できる。胎土は密、焼成は良好である。河内産である。

15は黒色土器A類の杯ある。口径21.5cmの大振りで深い。内外面にミガキの痕跡がみえる。内面を黒色化する。胎土は密、焼成は良好である。

16・17は須恵器である。16は杯B蓋である。天井部が低く立ち上がる。上面は回転ヘラケズリ、内外面ともロクロナデを施す。つまみは欠損する。胎土は密、焼成は良好である。17は鉢Dである。体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部は外反する。口縁部・体部内面にロクロナデを施す。体部外面上半はカキ目ののちにロクロナデを施す。胎土は密、焼成は良好である。

18は緑釉単彩陶器の甑である。体部下部和底の一部が残存する。底には透かしがみられる。外面はケズリのちナデ調整。胎土は精良で密、灰白色を呈する。施釉は外面のみで、釉調は灰白色を呈する。

溝12



柱穴33

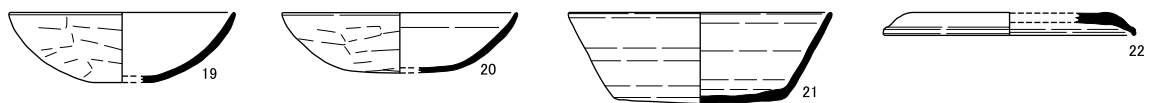


図9 土器類実測図 (1:4)

柱穴33出土土器（19～22） 土師器・須恵器が出土した。1 B段階に属する。

19・20は土師器椀Aである。丸底気味の底部から体部は内湾気味に立ち上がり口縁部に至る。口縁端部は丸く収める。器壁が剥離しているため観察しにくい。内面はナデ調整、外面はヘラケズリとナデ調整とみられる。胎土は密、焼成は良好である。

21・22は須恵器である。21は杯Aである。平坦な底部から口縁部は直線的に外傾する。内外面はロクロナデを施す。口縁端部は丸く収める。底部裏面にはヘラオコシ痕が残る。胎土は密、焼成は軟質である。22は杯B蓋である。天井部が低く立ち上がる。上面は回転ヘラケズリ、内外面ともロクロナデを施す。胎土は密、焼成は軟質である。

### （3）瓦類（図10）

軒丸瓦（23） 単弁蓮華文である。弁端はわずかに尖り、子葉は稜をなす。外区には内外縁を画す界線を有し、外には小粒の珠文を密に配する。周縁は内傾し幅はせまい。瓦当部形成は瓦当部裏面の upper 端に丸瓦を当て、下方に粘土を付加して接合する。上面にも粘土を付加して瓦当部を形成する。瓦当側面はヨコナデ、瓦当裏面はオサエののちヨコナデを施す。胎土は砂粒を含み、灰色を呈する。焼成はやや軟質で、外面は暗灰色を呈する。溝12から出土。長岡宮6133型式。

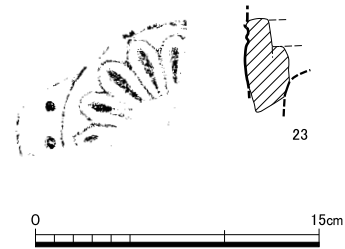


図10 軒丸瓦拓影及び実測図（1：4）

#### 註

- 1) 平尾政幸「土師器再考」『洛史 研究紀要 第12号』 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2019年

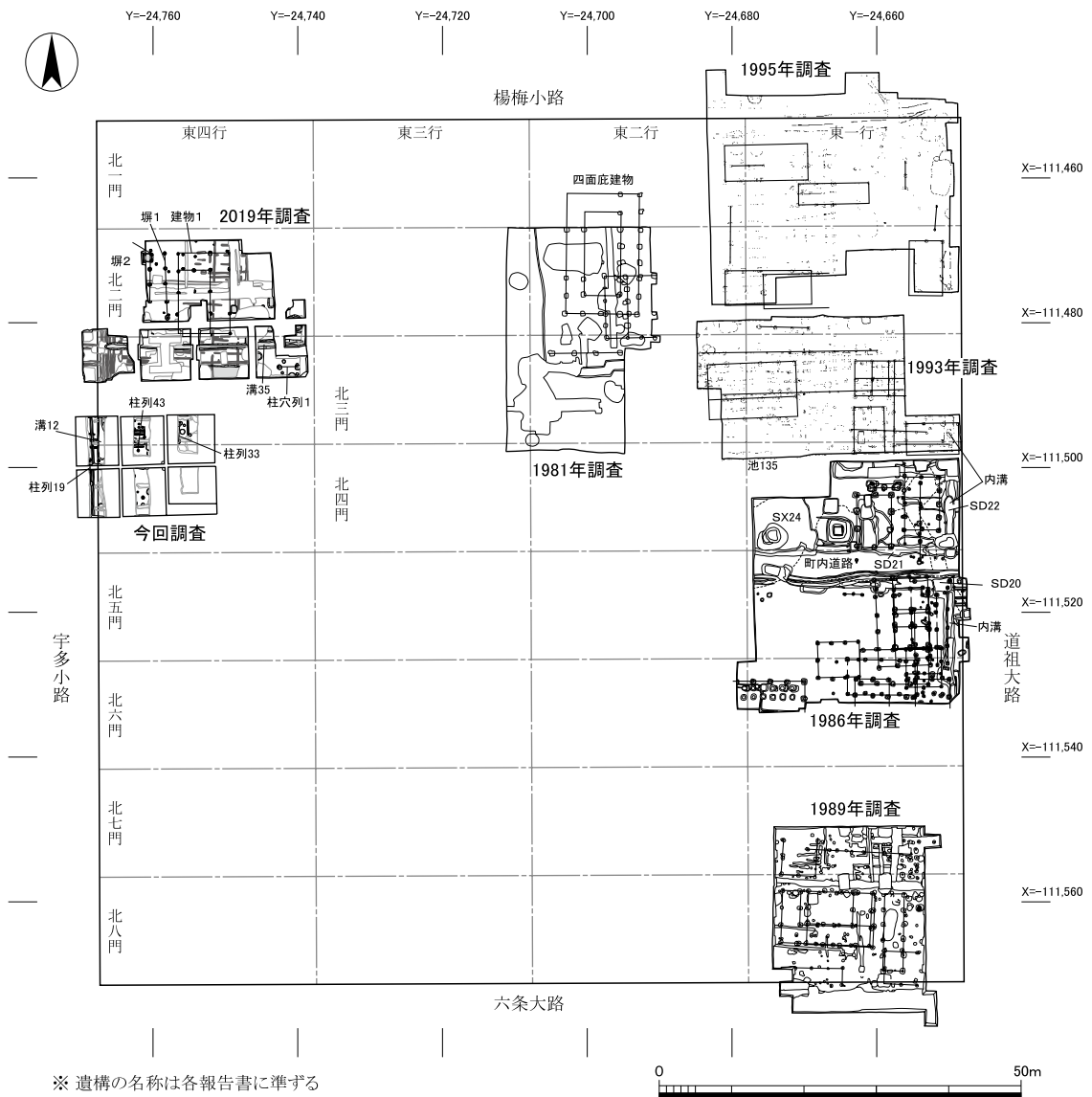
750年	840年	930年	1020年	1110年	1170年	1260年	1350年	1410年	1500年	1590年	1680年	1740年	1800年	1860年
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
A B C	A B C	A B C	A B C	A B A B C	A B C	A B C	A B	A B C	A B C	A B C	A B	A B A B	A B	

## 5. まとめ

調査地は平安京右京六条三坊四町の西端部に位置する。今回の調査では、平安時代前期の溝・柱列・柱穴と、鎌倉時代の耕作溝・土坑を検出した。既存建物の基礎攪乱により、調査区内の7割ほどが失われていたために、若干の柱列や柱穴は検出できたものの、建物の復元には至っていない。しかし、四町と宇多小路との境界では、平安時代前期の南北溝12を検出した。

溝12の性格については、①宇多小路東築地心推定線の東側に位置すること、②調査地中央部で途切れ、かつ埋土に水が流れていたことを示す堆積構造が確認できないこと<sup>1)</sup>、③多量の土器が出土したことから、内溝であった可能性が高い。攪乱によって多くの遺構が失われた状況にあって、調査区に平安時代前期の宅地が存在したことを示す資料が得られた成果は大きい。

また、溝12の埋没時期は、出土した土器の年代から9世紀前半と考えられる。以後、今回調査区内では、鎌倉時代以後の耕作溝や土坑が成立するまでの遺構・遺物は確認できていない。9世紀中



※ 遺構の名称は各報告書に準ずる

図11 平安京右京六条三坊四町の調査遺構配置図 (1 : 1,000)

頃に、調査区内の土地利用に変化があったと推察する<sup>2)</sup>。

特徴的な遺物としては、溝12から出土した緑釉単彩陶器の甗がある<sup>3)</sup>。緑釉単彩陶器は、奈良時代末から平安時代初頭に生産された遺物で、甗をはじめ火舎や羽釜など限定された器形で構成される。出土例は、平城京跡・山城国府跡・長岡京跡・平安京跡・寺院など約50箇所と少なく、長岡京跡や平安京跡では1/2町から4町を占有する規模の宅地や公的施設と想定される地点から出土している<sup>4)</sup>。

溝12から出土した緑釉単彩陶器の甗は、調査区内の土地利用や居住者の性格を今後考察するうえで重要な資料になると考えられる。

#### 註

- 1) 同様の事例として、長岡京右京二条三坊九町跡の溝1020、同右京二条三坊八町跡の溝172・1008、同右京二条三坊一町跡の溝188などがある。  
上村和直ほか『長岡京右京二条三坊九・十六町跡、上里遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2006-4 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2006年  
上村和直ほか『長岡京右京二条三坊八・九町跡、上里遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2006-34 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2007年  
高橋 潔ほか『長岡京右京二条三坊一・八町跡、上里遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2007-12 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2008年
- 2) 調査地北側に隣接する2019年度調査区では、平安時代前期の建物・堀・溝・土坑などが検出された。報告では、9世紀前半には宅地としての土地利用があり、9世紀中頃には東三・四行北一・二門にわたる1/8町の宅地があったこと、各遺構が廃絶する9世紀中頃以後、宅地としての土地利用が行われなくなった可能性を指摘している。  
西田倫子『平安京右京六条三坊四町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2019-8 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2020年
- 3) 平尾政幸「弘仁瓷器直前の緑釉単彩陶器」『平安京歴史研究 杉山信三先生米寿記念論集』杉山信三先生米寿記念論集刊行会 1993年
- 4) 山中 章「長岡京の施釉陶器 緑釉陶器の成立」『古代の土器研究 律令的土器様式の西・東3 施釉陶器』古代の土器研究会第3回シンポジウム 古代の土器研究会 1994年

付表1 土器類一覧表

番号	器種	器形	遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率 (%)	胎土色調	備考
1	土師器	椀A	溝12	11.8	3.2		90	5YR6/6橙色	
2	土師器	椀A	溝12	11.9	3.2		35	2.5YR6/6橙色	河内産
3	土師器	椀A	溝12	12.0	3.4		40	5YR7/6橙色	
4	土師器	椀A	溝12	12.8	3.0		25	5YR7/6橙色	
5	土師器	椀A	溝12	13.0	3.0		40	710YR7/4にぶい黄橙色	
6	土師器	椀A	溝12	16.5	(5.0)		40	7.5YR7/4にぶい橙色	
7	土師器	皿A	溝12	14.8	(2.6)		25	5YR5/6明赤褐色	
8	土師器	皿A	溝12	16.0	3.0		40	7.5YR7/4にぶい橙色	
9	土師器	皿A	溝12	16.0	2.4		75	5YR6/8橙色	
10	土師器	蓋	溝12		(2.6)		20	5YR5/6明赤褐色	杯B蓋 つまみ
11	土師器	蓋	溝12	17.8	(2.8)		25	7.5YR7/6橙色	杯B蓋 つまみ欠損
12	土師器	椀B	溝12		(1.1)	8.4	35	7.5YR6/6橙色	
13	土師器	椀B	溝12		(2.2)	10.0	20	5YR6/6橙色	
14	土師器	甕	溝12	17.9	(6.1)		25	5YR5/6明赤褐色	河内産
15	黒色土器	杯	溝12	21.5	(5.3)		20	7.5YR7/4にぶい橙色	内面黒色A類
16	須恵器	蓋	溝12	17.8	(1.2)		20	2.5Y7/1灰白色	杯B蓋 つまみ欠損
17	須恵器	鉢D	溝12	26.0	(11.1)		20	N5/0灰色	
18	緑釉単彩陶器	甌	溝12					胎土:5Y8/1灰白色 釉:7.5Y8/1灰白色	
19	土師器	椀A	柱穴33	12.0	3.7		25	7.5YR7/4にぶい橙色	
20	土師器	椀A	柱穴33	12.4	3.3		40	7.5YR7/4にぶい橙色	
21	須恵器	杯A	柱穴33	16.8	4.8		40	N8/0灰白色	
22	須恵器	蓋	柱穴33	13.2	(1.2)		20	2.5Y7/1灰白色	杯B蓋

※ ( )は残存数値

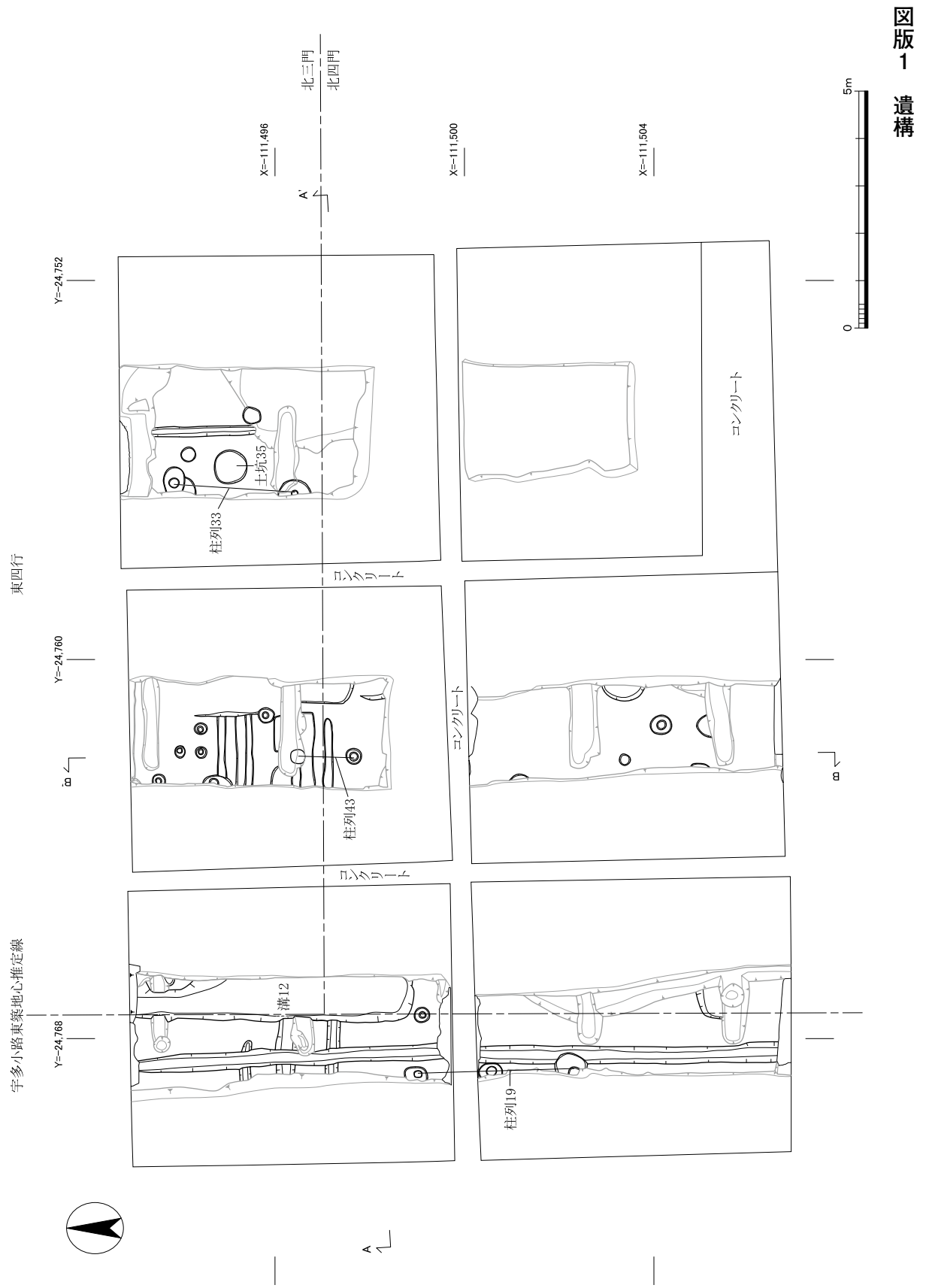


# 圖 版



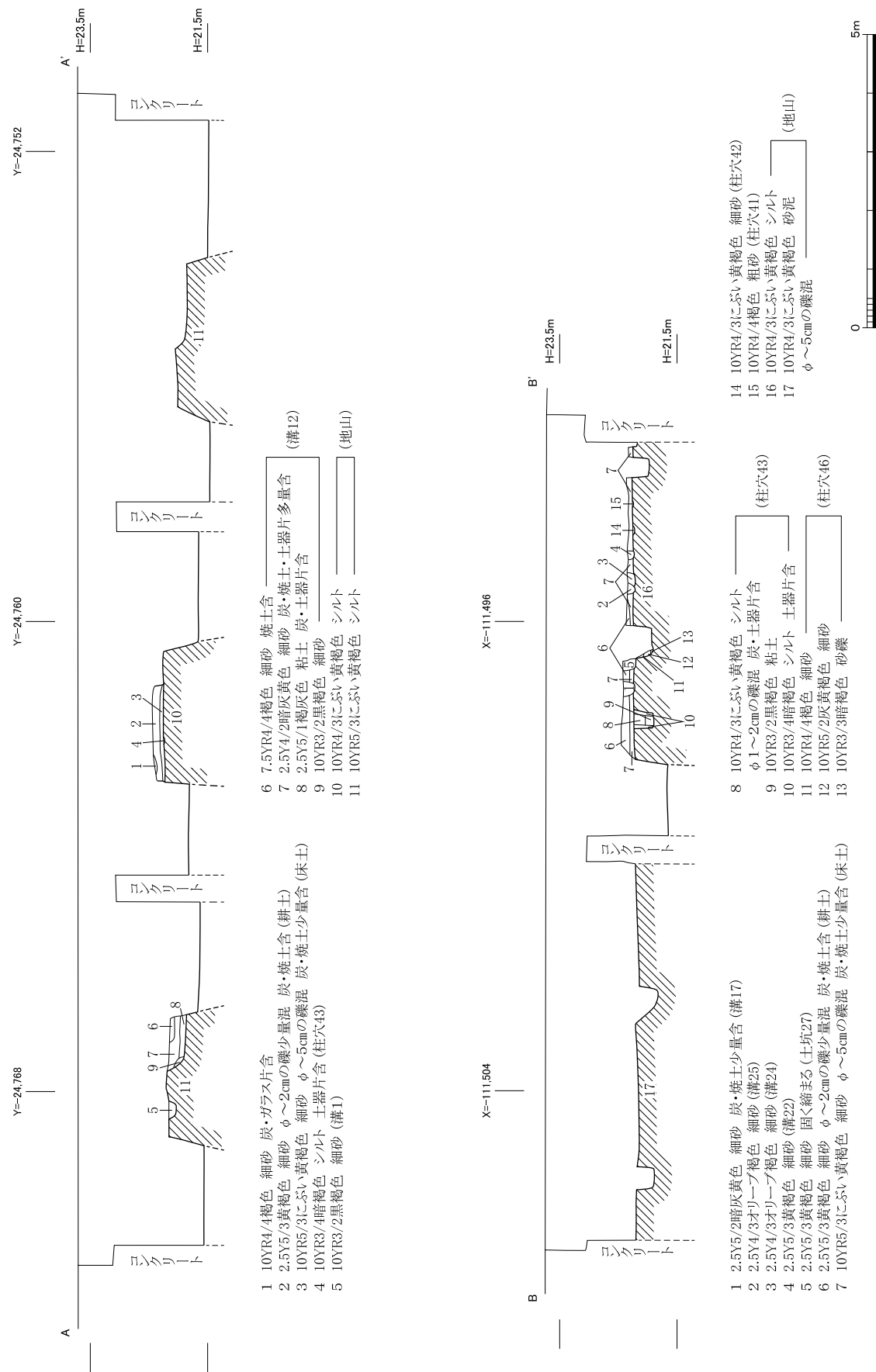


調査区平面図 (1 : 120)

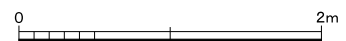
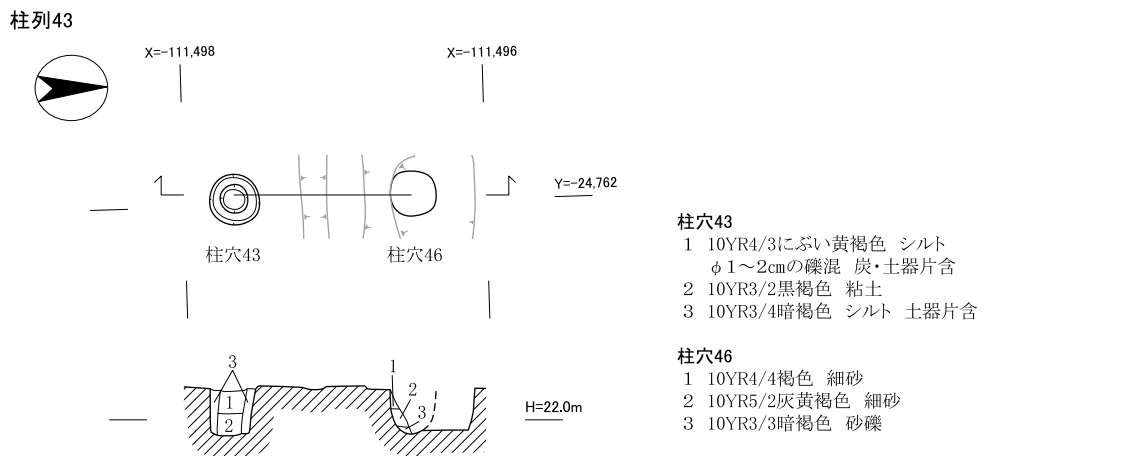
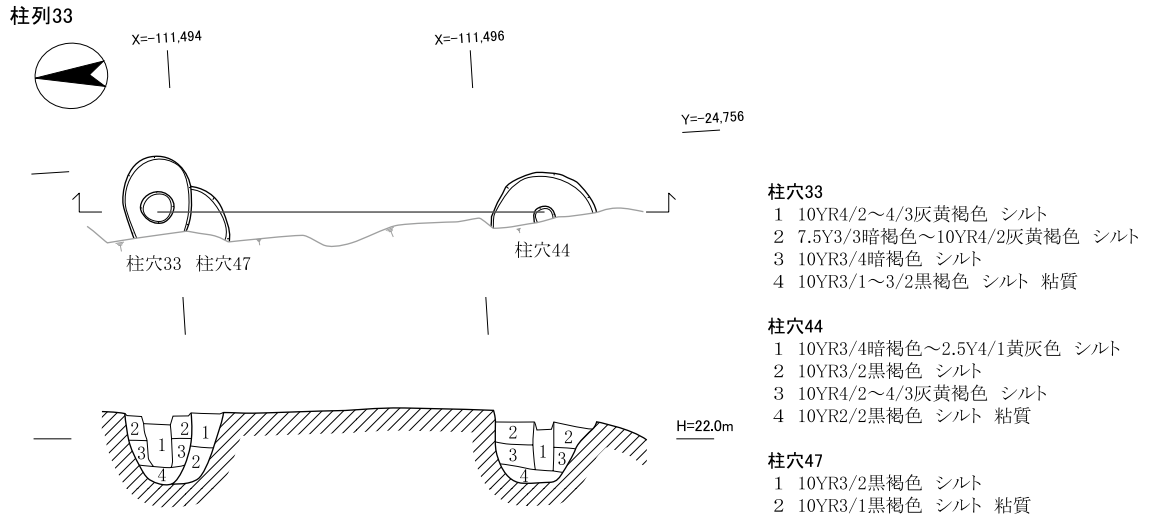
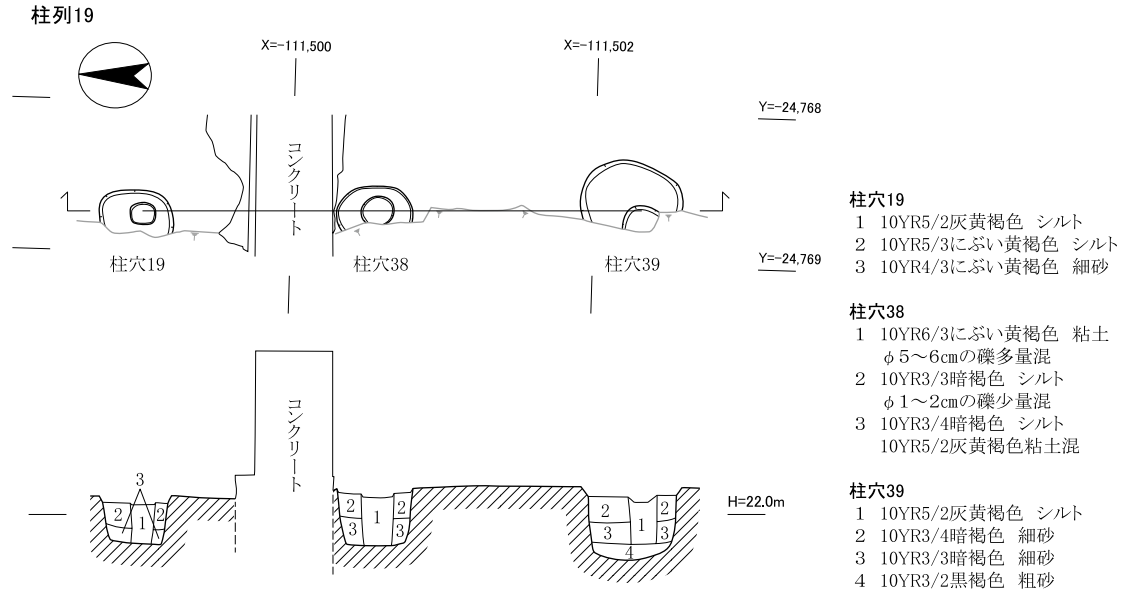


図版1 遺構

図版2 遺構



調査区断面図 (1 : 100)



柱列19・33・43実測図 (1 : 50)



1 調査区全景（西から）



2 溝12（北から）



3 柱列33（北から）

# 報告書抄録

ふりがな	へいあんきょううきょうろくじょうさんぼうよんちょうあと							
書名	平安京右京六条三坊四町跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2022-7							
編著者名	小檜山一良							
編集機関	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2023年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうあと 平安京跡	きょうとうしうきょうく 京都市右京区 さいいんみぞぎきょう 西院溝崎町  12-1番地 他	26100	1	34度 59分 41秒	135度 43分 44秒	2022年8月 8日～2022 年9月2日	266㎡	建物増築 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京跡	都城跡	平安時代前期	溝、柱列、土坑、 柱穴	土師器、須恵器、黒色 土器、灰釉陶器、緑釉 単彩陶器、瓦器、輸入 陶磁器、瓦類		宇多小路東築地の 内溝を検出した。		
		鎌倉時代以降	耕作溝、土坑	土師器、瓦器、焼締陶 器、施釉陶器、染付磁 器、瓦類、金属製品				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2022-7

## 平安京右京六条三坊四町跡

発行日 2023年3月31日

編集  
発行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1  
〒602-8435 TEL 075-415-0521  
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市上京区七本松通下長者町下る三番町273番  
〒602-8358 TEL 075-467-5151